

水辺の歴史を訪ねて

—太田川—



水辺の歴史を訪ねる会

目次

太田川の洪水と治水の歴史を考える散策会	1
1. はじめ	
2. 目的	
3. ねらいとするところ	
4. 中国地方公益活動推進会議	
5. 散策会実施位置図	
第1回散策会	4
日 時 平成16年11月14日(日)	
場 所 太田川右岸・高瀬堰～長束神社	
講 師 村岡幸雄(郷土史家)	
第2回散策会	9
日 時 平成17年3月5日(土)	
場 所 古川・高瀬堰～長束神社	
講 師 村岡幸雄(郷土史家)	
第3回散策会	16
日 時 平成17年5月28日(土)	
場 所 旧安川・大芝水門～大町駅	
講 師 佐々木卓也(郷土史家)	
第4回散策会	24
日 時 平成17年9月3日(土)	
場 所 京橋川・不動院～柳橋	
講 師 佐々木卓也(郷土史家)	
第5回散策会	30
日 時 平成17年12月11日(日)	
場 所 太田川本川・JR横川駅～厚生年金会館	
講 師 佐々木卓也(郷土史家)	
第6回散策会	37
日 時 平成18年6月4日(日)	
場 所 天満川・JR横川駅～厚生年金会館	
講 師 佐々木卓也(郷土史家)	
第7回散策会	44
日 時 平成18年10月14日(土)	
場 所 元安川・原爆ドーム～南大橋～平和公園	
講 師 佐々木卓也(郷土史家)	
第8回散策会	51
日 時 平成19年3月18日(日)	
場 所 太田川左岸・JR安芸矢口駅～戸坂～不動院	
講 師 佐々木卓也(郷土史家)	

あとがき

資料編

太田川の洪水と治水の歴史を考える散策会

1. はじめ

建設行政の発展と建設事業の推進に寄与すること、地域社会の発展に貢献するための活動として「地域づくり部会」の役割について検討し、活動の案として、中国地方整備局の事務所イベントのお助け隊、地域づくり団体への参画、自治体等の地域活動への参画など種々議論しました。

地域活動に不慣れなOBが今できることとして、水害の歴史や治水の歴史、地域文化の歴史を学習し地域住民に知らせることから始めることとしました。

テーマとしては、我々が業務として過去に経験してきたことでもあることから「太田川の洪水と治水の歴史を考える散策会」を実施しました。

2. 目的

太田川流域の洪水や治水事業等に関する旧跡や神社、仏閣、顕彰碑、慰霊碑などを歴史の専門家

や地域の住民の方々と共に訪ねて歩き、今日の広島の繁栄の礎となった事跡（治水事業・利水事業・船運等）を検証することによって、流域の人々が河川から恩恵を如何に受けていたか（具体的には治水・利水の公共事業）ということを広く市民に知って頂く活動です。

3. ねらいとするところ

まず健康維持のために歩くこと。そして、歩くことに意味を持たせるために、史跡や水害の碑を見つけ、河川と地域社会、文化の歴史を探り、何かが発見できればよいし、楽しく歩く中で太田川の役割や治水事業の必要性が認識できれば、目的の一つになると考えました。

これまで、一般住民の参加や会員の参加により8回の散策会を実施しました。ここにその8回の散策会の活動記録を報告します。



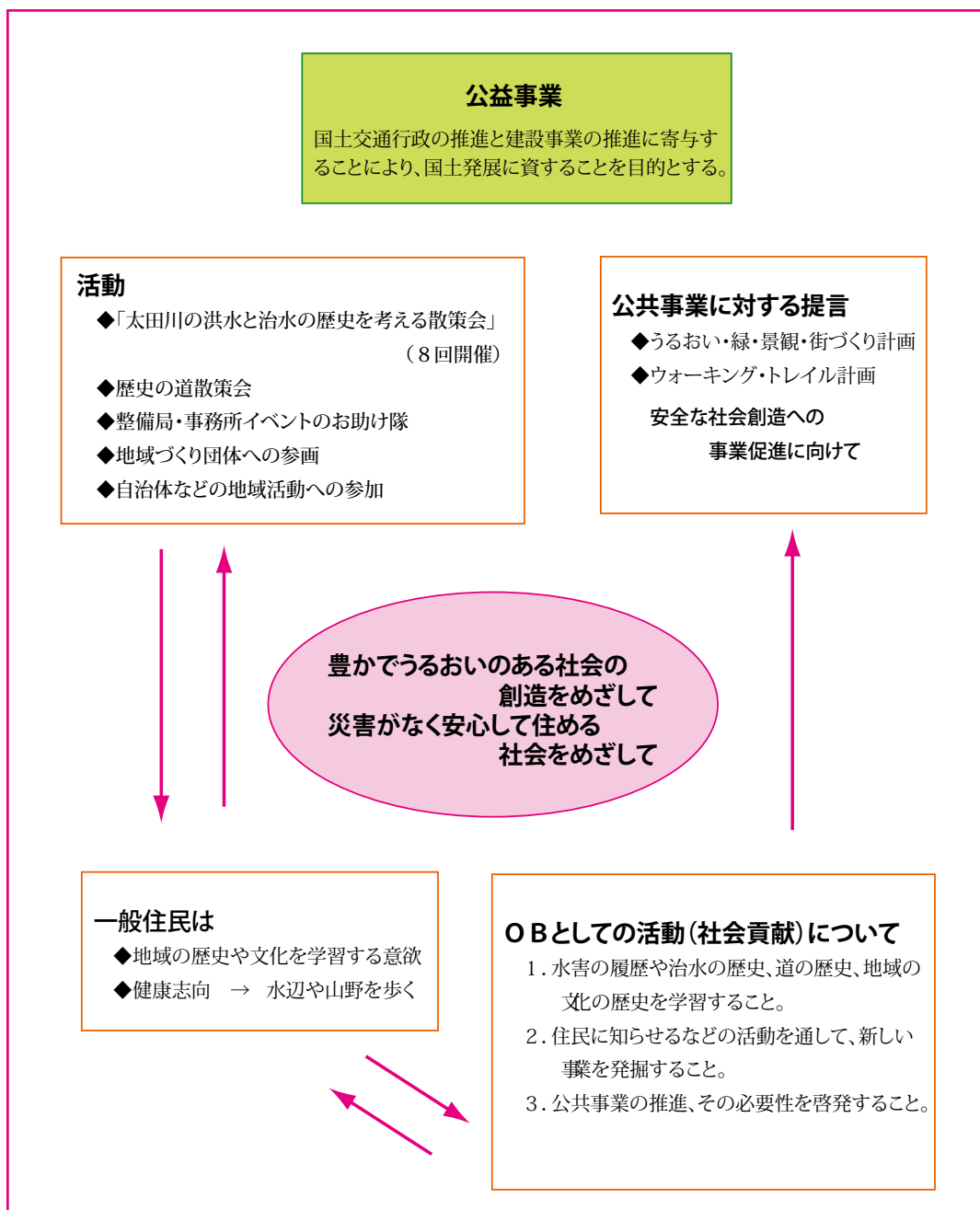
4. 中国地方公益活動推進会議

社団法人中国建設弘済会は、国土交通行政の推進や建設事業の進展に寄与し、国土開発の発展に資することを目的に多彩な活動を行っています。中国地域においては、暮らしやすい・魅力ある地域づくりに関する期待や要望が多岐多様に亘っており、社会資本の一体的な整備が課題となっています。

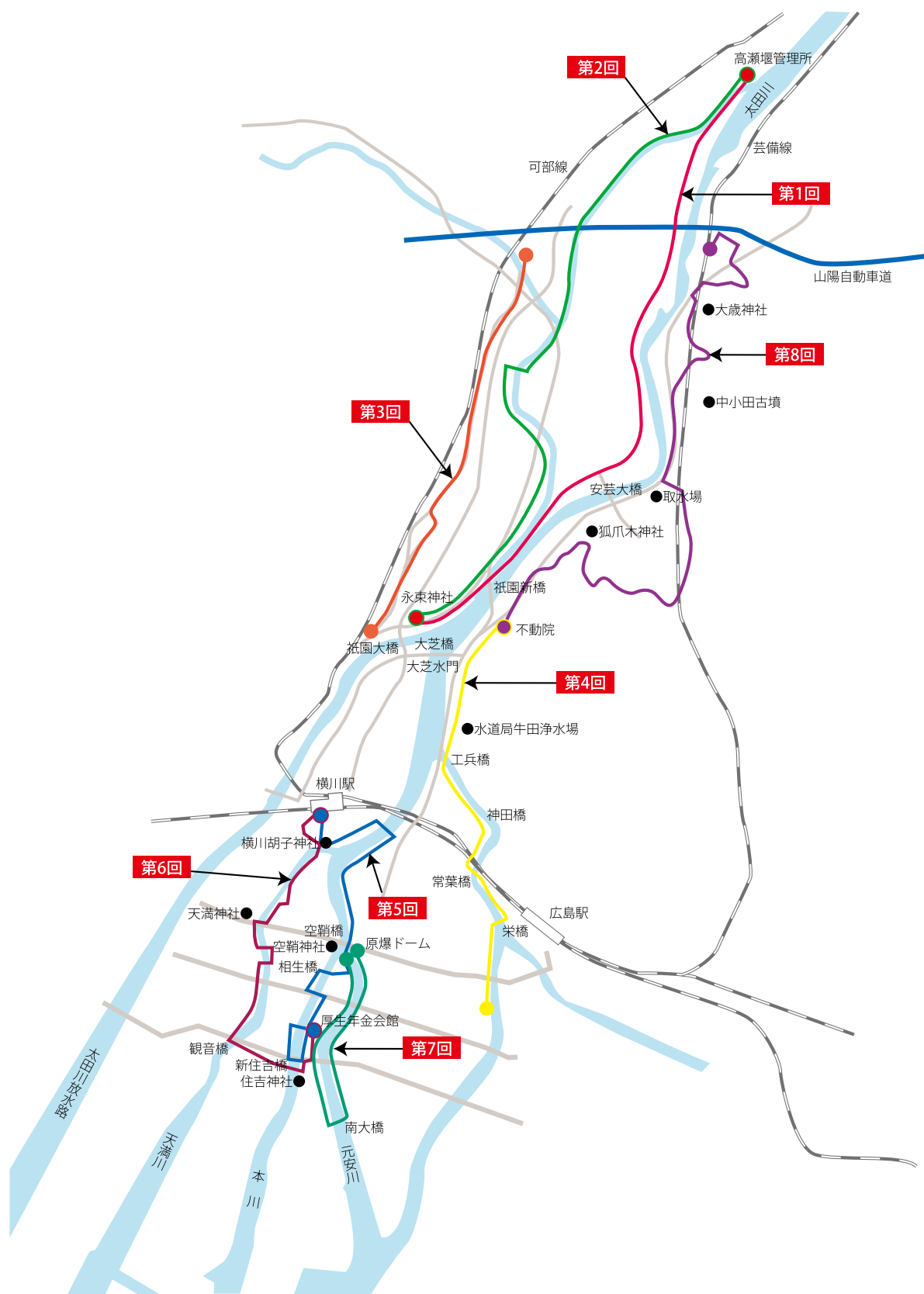
こうした社会資本整備を進める上で、公共事業を実施する事業者はもとより、それを支援する公益法人の活動が一層重要になっています。これまで社団法人中国建設弘済会が推進してきた社会資本整備の支援・協賛事業や独自に企画する事業等、公益事業の体制整備が希求されてきました。

このため、平成16年4月、公益活動を推進する組織として「中国地方公益活動推進会議」が設置され、会員参加型の活動を行っています。(地域づくり部会、防災対策部会、施設管理部会、建設技術部会、広報・情報部会の5部会よりなる)

● 地域づくり部会「活動方針」



5. 散策会実施位置図



太田川の洪水と治水の歴史を考える散策会 (第1回)



高瀬堰下流

第1回散策会

日 時 平成16年11月14日(日)
場 所 太田川右岸・高瀬堰～長束神社
講 師 村岡幸雄(郷土史家)

1. 第1回散策会コース



2. 水辺紀行

目的は、「郷土史家の村岡幸雄先生説明による近世以降どのような治水工事が行われたか、旧跡・碑や神社を訪ねて往時をしのびながら、堤防を散策します。」としてチラシを配布しました。また、集合場所は、高瀬堰管理所に10時集合の予定で、散策会の条件として、朝の天気予報で50%以上は中止と案内しましたが、あいにく天気予報は60%と発表されました。

しかし、朝、雨が降っていなければ現地に来る人があると思い、「地域づくり部会」事務局は顔を出すことにしました。雨の予報にもかかわらず、現地に十数名の参加をいただきましたので、参加者だけで散策会を実行しました。

①高瀬堰

高瀬堰管理所において、太田川河川事務所横林管理第二課長より、旧高瀬堰と新高瀬堰建設による治水・利水の効果を説明していただきました。車で来た人は管理所に駐車し、太田川右岸の堤防散策を開始しました。



参考資料：高瀬堰

②大禹謨

古川せせらぎ河川公園にて「大禹謨」の碑で説明を聞きました。(大禹謨とは、中国古代の聖王禹の大治水計画を言う。)

佐東町誌に碑の説明が漢詩で書かれています。

可見禹謨千世雄 (見ル可シ禹謨千世ニ雄ナルヲ、)
 漫々積水澤西東 (漫々タル積水、西東ヲ沢ス。)
 急湍変盡為平鏡 (急湍変ジ尽クシテ平鏡ト為リ、)
 兼亦堰堤扶歩通 (兼ネテ亦、堰堤歩通ヲ扶ク。)

この碑文が現地に見えないので、どうしても見つからないならば、新たに彫り込んでもよいのではないかと思います。



参考資料：大禹謨

③せせらぎ河川公園

古川はその昔、太田川の主流だった時もありました。この古川を、流域住民の安らぎと憩いを与える場として、河川環境の整備が始められたのは昭和49年でした。

昔は竹林の続く自然豊かな環境でしたが、いろいろな建物が増え、騒々しい環境となりました。しかし、開発に先駆けて、環境に配慮した川づくりが行われたおかげで、現在、癒しの河川空間としてのせせらぎ河川公園が残ったのです。

先人の先見と努力に感謝したいと思います。

この古川せせらぎ河川公園の第2古川の樋門より、古川維持用水と川内用水が取水されており、高瀬堰のおかげで、豊かできれいな用水を流し込むことができます。

せせらぎ河川公園より約300m下流、古川の右岸堤が分岐します。旧堤に沿って立つ家並みと農地、これより川内地区です。新しい家屋が目立ちます。 参考資料：せせらぎ河川公園

④ 観音堂

ここから約700m下ったところより旧堤が残っています。堤内地、堤防法尻^{のりじり}に観音堂が鎮座しています。川内地域には、このような観音堂がいくつかあって、地区ごとに大事にされているとのこと。

このお堂を通過して、福王寺道が続き今でも所々には道標が残っています。



⑤ 胡子神社

観音堂より旧堤防を下ること約300m、現在の堤防にぶつかるあたりに胡子神社が旧堤防上に建っています。

この胡子神社には子がつきます。「えびす」神社にもいろいろあるとの説明がありました。神社の千木には、男千木と女千木があります。川内地区では一番高いところが堤防で、水害で浸水して避難するときは、堤防の胡子神社に向かったのかもしれません。

安芸大橋・山陽自動車道をくぐって、少し下ると旧堤防が分岐しています。旧堤防の高さは、おおむね新堤防の裏小段の高さとなっています。旧堤防の高さで広い堤防になっているということは、従前の堤防までは、どのような洪水でも守る必要があるということかもしれません。



⑥ 琴毘羅神社

旧堤防が新堤防との合流するあたりに（河口より11.2km）琴毘羅神社があります。（「こんぴら」の表示もいろいろあります。）

このあたりには雁木があって、太田川を上り下りする多くの船の湊として利用されたものと思われる。

⑦ 太田川グランド情報センター

下ること400m、堤防が広くなったところが小さな公園になっており、「太田川グランド情報センター」があります。ここが以前、太田川佐東出張所のあったところで、太田川改修の現場担当をしていたところでした。

⑧ 堤平神社

河口より10.6kmあたりに「堤平^{ていへい}神社」があります。この神社は、太田川の河川改修でかかり、この地に再建されたとのこと。堤がいつまでも無事でありますようにと祈りを込めて造られたお社が、皮肉にも河川改修でかかるとは……。

手洗い岩のふちには盃状穴が掘ってある。

子供の成長や乳の出を祈って、穴を穿ち祈願しました。階段の数は、奇数に作るのが常識のようです。

少し下流、高水敷きのグランドでトイレもあり、昼食をとることとしました。

河口より 8.5 km 地点で北東に向かう堤防が、太田川・旧太田川に囲まれた輪中堤の下流端の辺りになるのではないのでしょうか？

これより下流は車両通行止めとなっているため、気楽に散策ができます。

河口より 8.0km 地点で古川が本線に合流、古川の右岸は一部が祇園新道やアストラムラインの用地に利用されています。

⑨荒神社

河口より 6.7 km あたり旧堤沿いと思われる位置に、荒神社がありました。神社の通りに面して石があり、地域に親しまれていることが伺えます。

⑩長束神社

長束神社に到着、神社では七五三のお参りに家族連れの人達が参杯に来ておられました。

芸藩通史によると、貞観 12 年（870）長束村大年山に創建、八幡宮といい、後にこの地に移したといわれています。

昭和 40 年 5 月 14 日、太田川放水路通水式を記念して、太田川全流域にわたる水の神を本社に奉斎し、御神名を太田川総水神と称えられています。

太田川治水の悲願がここに凝縮されていると思います。



⑪太田川總水神碑

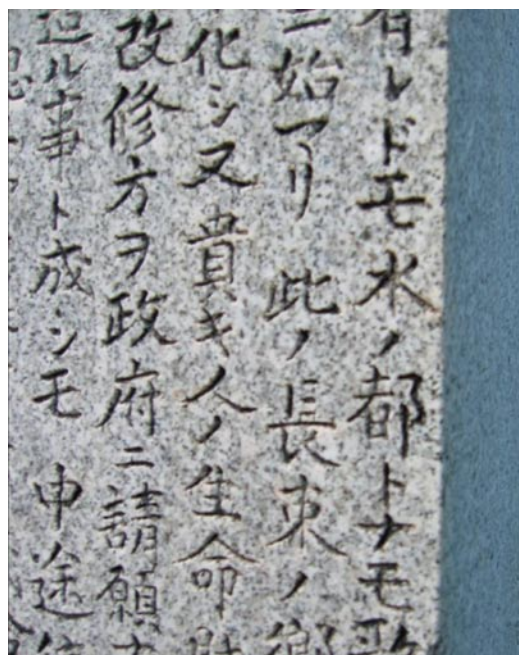
（太田川放水路の完成に感謝する碑）

広島市安佐南区長束一丁目、祇園大橋西詰めに「太田川總水神碑」があります。

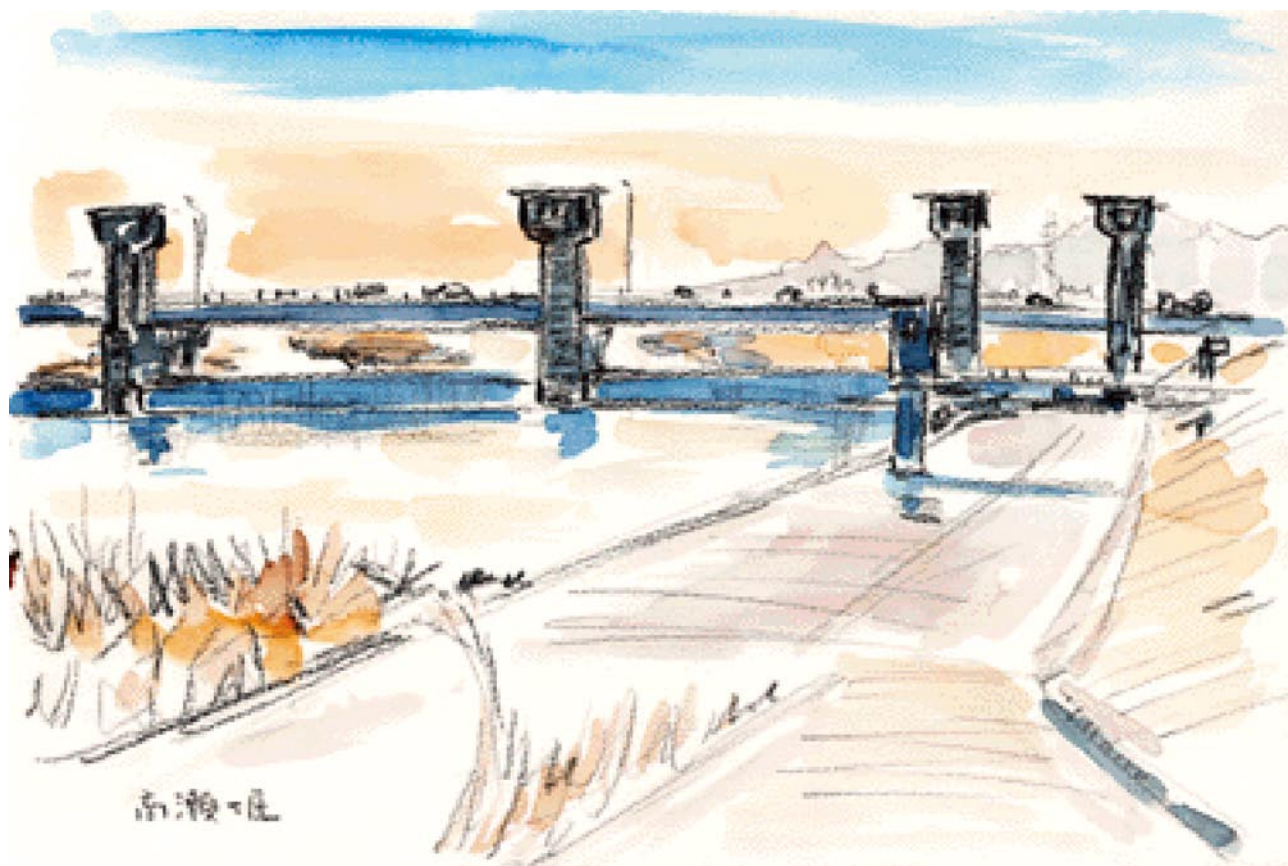
広島の前野は、洪水時に太田川から送り出される土砂によって形成された三角州の上にあるため、古くから洪水による災害に悩まされてきました。

大正 8 年や昭和 3 年の洪水によって市内の橋が流されるなど、大きな災害を契機に、地元住民が集まり太田川改修期成同盟が昭和 3 年 6 月に発足し、時の政府や一般住民に改修の必要性を訴えました。昭和 7 年には、国の直轄事業として改修工事が始まりました。しかし、第二次世界大戦の勃発により工事は一時中断し、昭和 18 年の大洪水により計画が見直されるなど、36 年の歳月をかけて、昭和 42 年ついに太田川放水路は完成することとなりました。

太田川總水神碑は、広島が長年水害に苦しめられてきたことや、太田川放水路完成に至るまでの経緯、広島前野を水魔から守護することを祈念として長束神社に祀ったことなどが刻まれています。



太田川の洪水と治水の歴史を考える散策会 (第2回)



第2回散策会

日 時 平成17年3月5日(土)

場 所 古川・高瀬堰～長束神社

講 師 村岡幸雄(郷土史家)

1. 第2回散策会コース



2. 水辺紀行

今から約400年前、久村辺りで西流していた太田川は、洪水によって南に変えられ、ほぼ現在の流れとなりました。

その後、古川と太田川に挟まれた川内・中調子・温井・中筋・東野地区は堤防が築かれました（輪中堤）が、ひとたび洪水になると、太田川から古川に流れ込みました。さらに増水すると輪中堤の中にまで流れ込み、これらの地域に大きな災害をもたらしました。

現在は第一古川・第二古川と2つの川筋が流れ下り、中筋のあたりで安川に合流し、西原あたりで太田川本川に合流しています。古川は、せせらぎ公園として、また太田川本川の堤防は立派に整備され、地域住民の散策やふれあい広場・憩いの場となっています。

河川の氾濫がなくなったことにより、地域は区画整理され宅地化が一挙に進み、市街地が広がり、人々は水害の恐ろしさを忘れようとしています。



古くは、自然の驚異に対する畏敬の念があり、人も自然の一部として付き合ってきました。私たちは、先人が歩んできた足跡を今一度振り返り、今後とも起こりうる自然の驚異に対して、心しておく必要があるとして散策会を企画しました。

内容は、安佐南のケーブルテレビや広島市の公民館などで活躍されている、郷土史家の村岡幸雄先生に説明者になっていただき、近世以降の治水や地域の文化、地域の住民が災害にどのようにか



かわってきたかを、お話いただき、治水の重要性を住民とともに考えながら歩くことです。

朝10時、高瀬堰に集合、降雨確率40%にもかかわらず運良く晴天となりました。参加者20数名、一般の参加者の大部分が年配の女性です。

①高瀬堰

高瀬堰では国土交通省太田川河川事務所の横林管理第二課長に高瀬堰建設の経緯について説明を受けました。

高瀬堰は、太田川水系幹線の三篠川、根谷川の合流点下流に設置されている、治水、利水発電放流水の逆調整を目的とした多目的堰です。

昭和42年度から調査に着手し、昭和46年度から本体工事に着手して昭和50年10月に完成しました。

高瀬堰には、3つの目的があります。1つは治水の目的で、従来から洪水の疎通の障害となっていた太田川を斜めに横切る旧高瀬堰を撤去して洪水を流れやすくすること。2つ目は上水道、工業用水、灌漑用水を開発すること。3つ目は太田川の可部で発電されて放水される水を都市用水として安定した取水ができるよう、逆調整用の貯水池としての役目です。

高瀬堰の諸元 形式—可動堰

高さ—5.5 m 長さ—273 m

湛水面積—1.0 km²

有効貯水量—178万m³

参考資料：高瀬堰

②八木城

高瀬堰の北側に位置する小高い山には、八木城が築かれ、八木村地頭として香川氏の居城となっていました。のちに毛利氏に属しております。城の東側に太田川を西側に雲石街道が北上する交通の要衝の場となっております。



この水路は、安佐南区八木町鳴で太田川から取水し、太田川右岸に沿って農業用水に苦しむ流域の9ヶ村(八木、緑井、中須、古市、西原、長束、新庄、楠木、打越)に用水を供給する目的で、江戸時代中期に祇園町の大工(当時は木工のみではなく、土木建築工事を請け負う者)桑原卯之助(1723～1783)によって築造された水路です。

この地域は、太田川、古川、安川に囲まれた沖積平野ですが、川からの十分な取水が困難で、江戸時代前期から広島藩は、西原を主体に井戸、水車、井出、堰等のさまざまな試みを行いました。いずれも成功しませんでした。



③八木用水の導水

広島市安佐南区の東部、八木から長束までの間を、国道54号と絡み合うようにして一本の水路(16.3 km)が流れています。八木用水です。

参考資料：八木用水

碑文

人生の哀歓を秘めた太田川、清澄な流れは、わが町の政治・経済・文化に大きく寄与し又われわれの生活に、父祖の生活に潤いと安らぎを与えてくれた。しかし濁流は、多年に亘って水と戦った人々の苦難の歴史を創った。

元和・寛永・承応・嘉永・明治7年・17年・大正8年・12年・15年・昭和18年・20年の水禍は大きく、特に承応2年の洪水は、死者5000人余に達したという。近く昭和18年の大出水は、八木村・川内村・緑井村の堤防を決壊し、濁流は全村に流れ込み、尊い人命と多くの財宝を奪い、惨状被害は筆舌に尽くしえないものがあつた。水禍に対する住民の苦悩は深刻であつたが、当時の三村の財政力では根本的な治水工事はできなかった。

幸い地元住民の協力により、昭和7年より国費による改修工事が進められ、40年の星霜と30数億円の巨費が投じられ、太田川中流部の改修がなり、願望の古川締め切り工事も昭和44年3月完成し、近く高瀬堰の完工を見るにいたつた。長年にいたる父祖の努力とわれわれの要望が実を結び、偉業を成し遂げられたことを町を挙げて喜ぶ。

黄河の水を治めた、夏の禹王の遠大な、はかりごとにあやかり大禹謨を建立して、太田川の歴史を偲び治水の大業を称える。

昭和47年5月20日

佐東町長 池田早人撰

桑原卯之助は、それまでの計画よりずっと上流の太田川右岸に取水口を設けることで水を引くことに成功しました。

八木用水は、開削以来 200 年以上にわたり水を送り続け、流域の田畑に豊かな実りをもたらしてきました。近年、農地が減少し、八木用水の農業用水路としての役割は小さくなってきましたが、郷土の歩みを語り続けている貴重な歴史的遺産であることに変わりはありません。

④せせらぎ河川公園 「大禹謨」の碑



参考資料：大禹謨

⑤川内用水

古川の環境用水や川内用水の導水がここより始まっています。導水量は下流の古川で利用する住民に支障がないように調整され放流されています。



⑥温井八幡神社

温井八幡神社のお社は、土を盛り石積み（この石積みの傾きが神社勾配となっている）が施された丘の上に鎮座しています。古い宅地もそうですが、度々起こる洪水の氾濫に、少なくとも貴重な財産だけは浸水から守ろうとして造られたものです。境内には「乳下がりの銀杏」と地元民に親しまれている銀杏があります。昭和 54 年に市の天然記念物に指定されています。

神社の本殿に右回りの巴がありました。なぜでしょう？



⑦可部への福王寺道

今は区画整理され、昔の道がどこを通っていたかよくわかりませんが、お寺や古い家並みに往時の面影を認めることができます。



⑧所々に野菜畑

川内地区は、洪水の氾濫の被害で苦しめられた半面、氾濫によって肥えた土砂が堆積したため野菜づくりに適した土地ができました。広島菜は当地の名産になっています。



⑨昔の堤防

祇園新道や国道54号バイパス、山陽自動車道の開通によって町の利便性は、一気に向上しました。区画整理によって市街化も進みました。これらによって古い道やこの地域を守ってきた古い堤防は、ほとんど姿を消しました。わずかに神社の沿道や付け替えた新しい堤防の一部として残っています。



⑩才の木神社

この神社は、賽の神に関係があるということです。神社がある中筋古市村は芸藩通史によると高宮郡に属し、周囲は沼田郡となっています。隣の郡から災いが入らないようにとの思いもあって建てられたものかもしれません。

この神社には水争いを回避する「3本のたすき」があるといわれます。残念ながらそのたすきを見ることができませんでした。



急に天候が悪化

才の木神社で昼食を済ませた後、散策を開始しようとした途端に天候が怪しくなってきました。西の方から曇り始めた天候は、雨から曇りに変わり、それに風も加わり始めました。アストラムラインの中筋駅も近いことから、今回の散策会は残念ながらここまでとしました。

郷土史会の散策会

4月10日に郷土史会の散策会も行われるということです。こぞって参加してください！



古川せせらぎ公園

太田川の洪水と治水の歴史を考える散策会 (第3回)



太田川に架かる鉄橋

第3回散策会

日 時 平成17年5月28日(土)
場 所 旧安川・大芝水門～大町駅
講 師 佐々木卓也(郷土史家)

1. 第3回散策会コース



2. 水辺紀行

今回は太田川の分水堰、祇園水門の管理所である大芝出張所を出発点として、旧安川と雲石街道に沿って歩くこととしました。芸藩通史を見ると安川は大町村から中筋村・北下安・南下安村途中で山本川を合流し、長束村・新庄村・打越村と流れ下り、直接海に注いでいたようです。現在では中須辺りで古川（旧太田川）に合流した後、西原で太田川本川に合流しており、流域としては山本川からの流出が支配的となっています。安川の流域からの洪水が上流でカットされたことにより、大町から下流では洪水の被害が激減しました。周辺の村や町は、優良な耕地となり、市街化が一気に進みました。

近年になって太田川放水路の完成は、しばしば発生する太田川市内派川の洪水被害をなくし、自然の川の恐ろしささえ忘れさせてしまいました。

旧跡を訪ねることによって、今一度、社会資本整備の効果を感じ、その重要性を啓発できればと実施しました。

朝 10 時、大芝出張所に集合、降雨確立 30% で晴れ、日差しが強く若干蒸し暑く歩くには少し厳しい感じです。参加人員 20 数名、一般の参加者は郷土史会の面々と西国街道散策会の方々です。

① 岩澤忠恭翁の胸像

大芝出張所の建物の前に、元参議院議員の岩澤忠恭さんの胸像があり、悠遠な太田川の流れを見つめています。

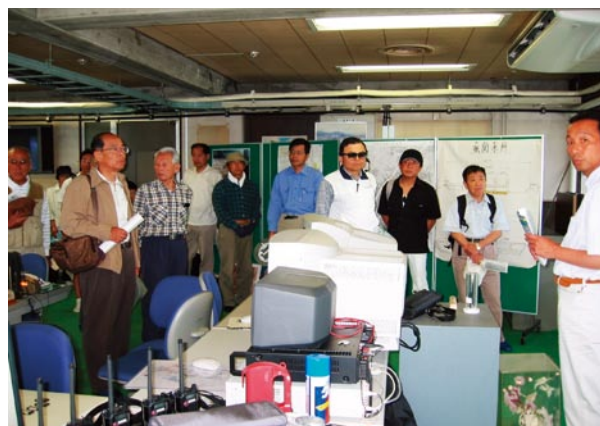


岩澤さんは、太田川の河川改修に心血を注ぎ、110 億円の国費と、30 数年の歳月を費やしてこの大事業を完成させ、広島市民を水害から守った恩人です。

② 大芝水門と祇園水門

大芝出張所では国土交通省大芝出張所、坂田所長に大芝水門と祇園水門の役割について説明を受けました。

昭和 36 年放水路の要である祇園水門（可動堰）と市内派川への大芝水門（分水堰）の工事に着手しました。



大芝水門は、左岸が流況の水裏にあたり、流木などの漂流物に対しても安全であること、また、現況の平水が左岸寄りに流れていることから左岸に可動堰、右岸に溢流堰をそれぞれ設置しました。

祇園水門は、市内派川への分流量の維持、放水路下流からの塩水遡行の遮断、開門放流による放水路の浄化機能などの目的で可動堰としました。

両水門は完成し、昭和 40 年 5 月 14 日待望の通水式がとりおこなわれました。昭和 42 年に一部残っていた堤防も完成し、着工してから 36 年の歳月と巨額な投資と地元住民の皆様の協力により放水路工事は概成しました。

水門の完成により太田川の洪水（計画高水流量）7500 m³/s の内、4000 m³/s を放水路に流し、残りを市内派川に流すことによって、広島市街地は洪水の被害から大きく軽減されることになりま

した。昭和 47 年 7 月豪雨、昭和 51 年 9 月豪雨でも広島市内は出水被害を免れることができました。また、平常時には、太田川放水路側にも環境用水として、維持流量が流されています。

参考資料：大芝・祇園水門

③長束神社

長束神社は、太田川の水神様が合祀された総水神が祀られています。昭和 40 年には太田川放水路という昭和の大事業の完成によって、広島市の治水安全度が格段に上がり、今まで毎年のように洪水に脅かされていた広島市街地の洪水災害は、発生しないのではないかとされています。河川改修の目標値は、社会資本などの投資規模などから定められているもので、自然現象においては、目標値を上回る洪水は起こりうることを知っておくことが重要と思われます。



④新安川排水樋門

旧安川は、現在新安川となっています。新安川



が大田川放水路に合流する左岸側に八木用水の流末が合流しています。川では錦鯉が泳ぎ、スポンが足がかりのないブロック護岸に戸惑って泳いでいました。

⑤旧安川



安佐南区長束で旧安川は、雲石街道に沿って北上しています。現在ではコンクリートで固められ水辺に降りるのはままならぬ状態ですが、近世には、雲石街道を行く馬の水飲場でもありました。また、洗い場であったり、生活に密着した場でもあったと思われます。

雲石街道を旧安川に右折した辺りで、今年 3 月 7 日 92 歳でなくなった原爆詩人の栗原貞子さんの住家がありました。

⑥蓮光寺の蓮華松

この寺は、鎌倉時代の弘安 6 年（1283）に武田信隆の次男清順が下安に建立した松陰坊がその前



身とされています。福島の時代の寺町から浅野の時代になって寛永7年(1630)に現在位置の長束に移ったといわれています。

庭には蓮華松(県天然記念物)といわれる立派な松が、大切に保存されています。長年の風雪に耐えてきたのか、補修の痕が痛々しく感じられました。

⑦投石地蔵

別名を「イボ地蔵」といっています。この石は武田光和が武田山から投げて、この地まで届いたという伝説が残っています。

地蔵のそばの2本の松の木の、松の葉で身体にできたイボをつつくと、イボがなくなると伝えられています。今では手の届く範囲には枝がありません。



⑧祇園商家のたずまい

寺勾配の石積み、奥行きのある町屋の作りが当時の繁栄をしのばせています。



⑨熊野神社

熊野三山のうち、熊野速玉神社はやたまの分霊をもらい受けて祀ったといわれています。人が集まると火災が発生するため、帆立の火除神として祀られました。旧安川の水は、防火用水としても活躍したかもしれません。



⑩太田医院の鏝絵

漆喰芸術ともいわれる鏝によって仕上げられ立体的に造られた2人の子供の立像があります。家の権威と家族の繁栄を祈って作られたものと思われます。



⑪安芸津彦神社

巖島神社ゆかりの神社で「官幣社」といわれました。流域で取れたお米がこの地に集められ、蔵が建ち収められ、古くより栄えたといえます。



⑭安神社

今の神社はお祇園さんと呼ばれ、元武田山のふもと松尾山(今の祇園中学校)にあったといわれ、戦火による火災、武田氏の保護による復興、毛利元就・輝元などによる復興によって現在に続いているといわれています。

⑫勝想寺

旧国道、「中祇園」通りを少し入ったところに勝想寺があります。境内には、八木用水を開削し、農業用水を導水し数多くの農民の命を救った桑原卯之助の墓があります。町屋の奥に位置する寺の構えは、町を守るという意味もあったといわれています。



安神社の境内で昼食をとることにしました。



⑬恵美須神社

安神社の末社で、商業の守護神、祇園の商家守護神として崇められ、祭りなど盛大に行われてきたものと思われます。

安神社の境内に道しるべ石があり、「左やすかけ(安,加計)往来」「右出雲大社道」と刻まれています。この道しるべは道路の改良で引っかけり、安神社境内に保存されることになったといわれています。



⑮竹林寺山 浄宗寺

もともと武田氏の菩提寺として創建されたもので、天台宗のこのお寺でトイレ休憩させていただきました。山門が鐘楼と一緒に厳かな寺です。



⑯中筋の才の木神社

水争いを回避する「3本の樗」が保存されています。さてどうやって水争いを回避したのでしょうか？



⑰久保山神社

古市の中心に在る神社で天保5年(1834)の火災をもとに、鎮火を祈って銀杏の木が植えられました。

神社の舞台は子供の遊び場となっており、神社が祈りの場から地域の親しみの場になっているのも時代の流れかもしれません。



⑧中須、新安川の出発点

安川は、中須でショートカットされ古川に合流しています。新安川（古い安川）の出発地点は暗渠となっており、地上には姿を現しておりません。ここは小さな公園となっており、暗渠や水路化したことによって無くなった昔の橋がモニュメント（マンホールの蓋）として刻まれていました。

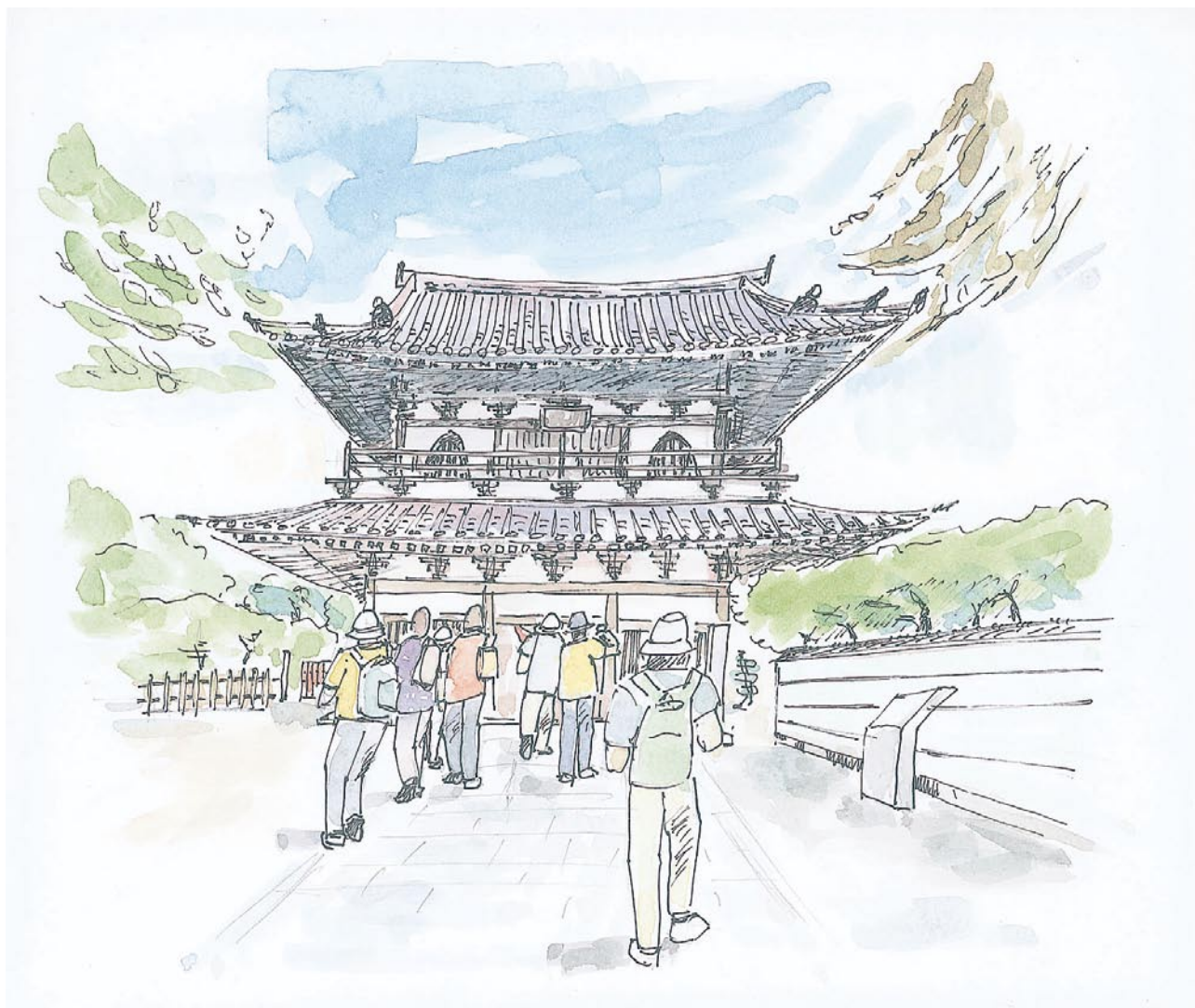
「伊予屋原橋、古市橋、二階橋、庁舎橋、武田山橋、酒屋橋、今津橋、山之上橋」です。



大町駅にて解散、お疲れ様でした。



太田川の洪水と治水の歴史を考える散策会 (第4回)



不動院

第4回散策会

日 時 平成17年9月3日(土)

場 所 京橋川・・不動院～柳橋

講 師 佐々木卓也(郷土史家)

1. 第4回散策会コース



2. 水辺紀行

平成 17 年 9 月 3 日（土）晴天、9 月に入ったというのに、刺すような日差し、台風 14 号が近づいていることもあってか、蒸し暑くもあり、参加者は少ない。

午前 10 時、不動院楼門（国重文）前に集まった人数 10 名足らずで出発することとなりました。

散策のコースは、東区牛田新町の不動院から京橋川を下り柳橋まで、行程約 8 km です。

今回の散策会の出発地点の不動院は、太田川の河口に平野が形成される三角州の頂点に位置するところにあります。

三角州による平野は、洪水時に太田川から送り出される土砂によって形成されるため、ひとたび洪水が発生すると、農地や住居地は水害に悩まされることとなりました。広島のに城が築かれ、城下町が整備されるためには、川筋に護岸や堤防を築き、洪水を防ぐ必要がありました。しかも、流域から送り出される土砂によって埋められる川床を浚さらえる必要もありました。城下町の川では、洪水の後に河川に堆積した土砂浚さらえに汗する人の絵図が残っています。

① 不動院

不動院と銀山城に挟まれるあたりが平安時代から巖島神社などの倉敷地があったといわれ、水上交通の要衝でありました。

寺の開基は僧空窓といわれ、暦応年間（1338～



1342)、足利尊氏は国ごとに安国寺をつくることとし、安芸国ではこの寺が安国寺にあてられました。その後、臨濟宗東福寺末となっていました。大永年間（1521～1528）兵火にあうなど衰退していきました。のち天文 10 年（1541）銀山城落城によって滅ぼされた武田氏の子孫といわれるえけい恵瓊がこの寺の住持となりました。現存する建物はほとんど彼の努力で再興されたということです。のち毛利に変わって入部した福島氏の祈祷師有珍が住持となってからは真言宗になりました。

② 牛田浄水場の水道資料館



牛田浄水場は、明治 31 年（1898）に開設され、広島水道 100 年の歴史歩んでいます。現在では急速濾過施設を持って浄化された水が、市民のために送水されています。設置当時は緩速濾過施設で広大な敷地を持っていましたが、その一部が平成 6 年（1994）アジア大会の会場、広島ビッグウェーブとなり、また、牛田総合公園となっています。

資料館は、大正 13 年（1924）に築造された水道のポンプ室を改修したもので、当時のモダンな建物の面影を残しています。

展示物は、広島水道の歴史や太田川の自然などが紹介されています。開館日は、月、水、金、土、祝日が開館日となっています。

③工兵橋



工兵橋は、白島（南）側にあった工兵五連隊が牛田の演習場（工兵作業場）へ向かう連絡橋として明治22年（1889）に架けられたのが始めといわれています。つり橋となったのは、大正10年（1921）となっています。

現在の橋は、昭和8年（1933）に架けられたもので、原爆にも破壊されず、避難のため被爆者の多くが渡ったということです。

④八剣神社

二代目広島城主福島正則は、洪水のたびに破堤し、氾濫する城下町を守るため、大切にしていた8つの剣を埋め、堤を築き、そこに祠を建てました。元和3年（1617）から約370年、以来、水の守護神として、北風に逆らい、川に向かってあえてここに建てられました。



⑤広島蓬莱鶴

広島中区白島九軒町に明治から続く、造り酒屋が残っています。平成7年に蔵をビルの地下に造りました。現在6代目が頑張っています。

桜土手で昼食

土手には、大きく育った桜や楠木などで涼しい木陰があり、市民の格好の散策場所となっています。

⑥饒津神社

東区二葉の里にある饒津神社は、江戸中期の天保6年（1835）に広島城主浅野家を祭る神社として建てられたもので、参道の石灯籠や立派な狛犬が目を引きます。

原爆によって大きな被害を受けたこの神社は、原爆投下直後多くの避難民が集まりました。ここに陸軍の兵士が臨時の救護所を設置し、3ヶ月あまりテントが張られ避難場所となりました。

原爆で生き残った松が枯死し、原爆体験の松として保存されています。樹齢推定約1700年といわれています。



⑦京橋川沿いの河川公園

対岸は上田宗箇が築庭した縮景園、庭園へ導水される取水口がみえます。ここらあたりは干潮区域のため縮景園の池は汽水となっています。



⑧栄橋

栄橋の東詰めに、饒津神社や広島城に向かう道標がありました。このあたりに大須賀渡しにぎつという渡し場があったということです。

初代栄橋は、明治39年（1906）3月に架橋されたということで、昭和5年（1930）10月に架け替えられ、原爆の惨禍にあいながら現在に至っているということです。



⑨京橋川水辺のオープンカフェ

残暑が厳しい午後のティータイム京橋川河岸のオープンカフェに談笑するグループがいた。日差しを避けて暑さをわすれさせる風景でした。

「水の都ひろしま」太田川デルタに発展した広島唯一無二の財産、他の地域に負けない価値を持つ太田川を活かした街づくりは、川から街を臨み、街から川を思い、川に親しむ「太田川との共生」が欠かせないと思います。その一つが水辺のオープンカフェの誕生です。



平成9年に河川法が改正され、治水、利水に加え環境が河川法の目的になりました。

平成16年3月に河川利用の特例制度が創設され、河川区域内にそれまでは認められなかった新たな占用施設の設置、その施設を利用した民間事業者の営業活動が社会実験として可能となり、京橋川にて全国で初めて独立店舗型の水辺のオープンカフェが誕生したのです。その根底には、安全、安心の川づくりを営々として積み上げた結果だと思えます。

川の365日というスローガンがある。100年に一度の洪水が明日起こるかも知れない、その洪水の備えを日々思い考え、そして対処できる日常生活を創ろうという事です。

参考資料：水辺のオープンカフェ

⑩京橋

毛利輝元が広島城に入城したその年、天承 19 年（1591）に京に向かう橋として「京橋」が誕生したといわれています。その後京に向かう西国街道として利用されました。

現在の京橋は、昭和 2 年（1927）8 月国道として架橋されもので、昭和 20 年（1945）8 月 6 日原爆によって親柱の上部がずれたものの、通行には支障なく今に続いています。



⑪橋本町の巖島神社

京橋川河畔の緑地帯にある巖島神社の御祭神は、市杵嶋姫命で明神さんと呼ばれています。明治時代には、明神浜から宮島管弦祭のお供船が出たということです。

西の通りには、金毘羅様も鎮座され、それはたいそう賑わったということです。



⑫柳橋

柳橋は、明治 11 年（1878）に架橋され、渡料が徴収されたといえます。

銀山町と稲荷町をつなぐ柳橋は、架け替えのたびに小さくなったといわれ、現在は歩道橋となっています。



太田川の洪水と治水の歴史を考える散策会 (第5回)



空鞆橋から

第5回散策会

日 時 平成17年12月11日(日)

場 所 太田川本川・JR横川駅～厚生年金会館

講 師 佐々木卓也(郷土史家)

1. 第5回散策会コース



2. 水辺紀行

12月11日（日）散策会の参加者は、横川駅前に集合、参加人員12名と人数的には、いささか寂しい感じでしたが、師走のころとしてはやむを得ないと思います。

30年前の横川駅前は、今のように勢いがあって華やかではなく、時代に置き忘れられたような雰囲気でした。屋台でいっぱいやり、背中を丸めて家に向かうような感じだったと思います。

①横川胡子神社

横川駅のすぐ東の通り、旧国道54号を南に向かうと新しくブロックを敷いたきれいな道路に出会います。沿道の建物も近代的に模様替えされ、若者に好かれそうな町並みとなっています。

この町並みを突っ切り天満川にあたった川岸に、横川胡子神社があります。社伝によると安永8年（1779）巳亥正月廿日に築造し、楠木村横川町の住民が商売繁盛を願い祀ったのが始まりとしています。

このあたりは、雲石街道の出発点として商家が並び人は行き交い、賑わっていたものと思われます。



②楠木の大雁木

楠木の大雁木は、太田川の上流から積み出される木材・薪炭・米・和鉄などの船着き場として利用されました。



川をみると、いつもは黒いへドロ状の川底が、白い砂で覆われていました。これは近年最大といわれる台風14号の置きみやげだと思われます。近世には太田川上流でも砂鉄の採取、鉄穴流しかんなが行われ、流域が荒廃し、洪水時には多くの土砂が送り出され川を埋めました。そのため出水の度に、舟運と流路の確保のため川浚えの普請が行われました。今は流域の林層の回復とダム建設によって流送土砂は極端に少なくなっています。

太田川には多くの雁木があります。雁木とは、川に降りる階段のことで、太田川の潮の干満で水面が上下しても、船が着岸しやすいよう工夫された階段状の荷揚場です。

江戸時代から船運で栄えた太田川流域には、約300箇所の雁木が確認されています。この雁木は、古くから生活物資の運搬船の船着き場として利用されるなど、川とともに生活の中の重要な一部を担っていました。

また、瀬戸内海沿岸、鞆の浦、尾道、下蒲刈島等にも雁木が残っています。

雁木のいわれは、階段状のギザギザの形が空飛ぶ雁の列に似ているのが雁木の名前の由来のようです。

現在、この雁木が広島中心部で近代の水運を支え発展したことが高く評価され、土木学会の近代土木遺産リストに登録される予定です。

また、平成16年3月から、この雁木の機能を栈橋代わりに利用する雁木タクシーの試験運航が、雁木の保存調査を続ける市民活動家の運営により開始されました。

③桜並木

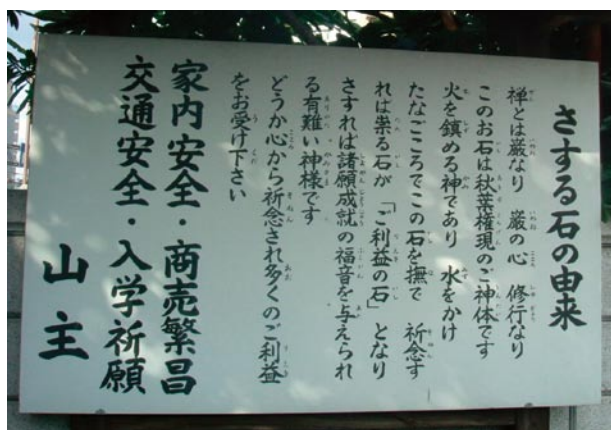
川の環境整備をするときいつも悩むのが、木陰がないことです。ここには立派な桜並木があってそれだけで癒しの空間となっています。

④白島の地下歩道

白島の地下歩道工事中に広島城の石組みがでてきました。この石組みの跡をタイルで再現しています。地下歩道を出ると城の石垣の一部を再現してありました。歴史を伝える方法としては伝承・書籍だけでなく、形として残せるものがあればと思います。

⑤さする石

西白島に曹洞宗石嶺山洞門寺があります。何でも願い事を叶えてくれる「さする石」があります。今日一日、太田川の散策会が無事終わりますようお願いして石をさすりました。



⑥三篠橋左岸アンダーパス

広島市内は6つの派川があり、東西に道路が走っている。川にはいくつもの橋が架かり、交通の流れが遮断されないようになっています。一方、水の都広島においては水への関わりが見直されてきています。水辺の緑地帯への期待として散策路、カフェテラスの設置などが行われています。しかし、河川の流れ方向の人の動きは、多くの橋梁によって遮断されています。これを解消しようとし



てつくられつつあるのが橋梁の下をくぐる通路です。

この通路のことをアンダーパスといいます。

ここにも橋の下をくぐるアンダーパスがあるので、橋をくぐってそのまま橋の下流へ行けます。水辺の散策に便利です。

太田川のアンダーパスは、水辺の連続性や水辺沿いの快適な歩行者環境づくりのために、平成4年、元安橋と三篠橋で作られ、順次事業が進められてきているようです。もっともっと連続して水辺を歩いたり、サイクリングしたり出来るよう事業を進めて欲しいものです。

参考資料：橋梁アンダーパス

⑦長寿園の河川公園

このあたりに広島城に導水するためのお堀（羽子板堀）がありました。お堀の呑み口には水門がつけられ、塩水が入らないよう調整したということです。



⑧お堀の浄化用水導入口

明治以降広島城の外堀は埋め立てられ、都市施設が次々建設されてきました。そのため残った城の内堀は閉鎖水域になり、水が腐ってしまいました。何とかしてお城の水を循環させようとして、平成元年度から平成5年度にかけて行われたのが堀川浄化事業です。



この堀川浄化事業は、広島城内堀の水質改善を目的として、旧太田川から内堀までの取水ポンプの設置及び導水路の整備を旧建設省で行い、内堀の底泥処理及び流出路の整備を広島市でそれぞれ分担して行われ、これにより造られたのが、お堀の水の導入施設です。

参考資料：堀川浄化

⑨基町環境護岸

相生橋の歩道上より旧太田川上流を眺めると、川の街・水の都広島を代表する景観を目にすることができます。

戦後の高度経済成長期を経て、昭和40年代に河川に対する価値観も多様化し、水と緑のオープンスペースとしての整備も望まれてきました。

ここ基町環境護岸は、相生橋上流8800mの区間について整備し昭和58年10月に完成しました。護岸の整備は、眺望が楽しめ、やすらぎを得られるとともに、治水機能との整合にも種々の配慮がなされています。

これからも、広島市民の憩いの場として多くの人に潤いを与えてくれることでしょう。

参考資料：基町環境護岸

⑩元町護岸のポプラ



台風で倒れた基町護岸のポプラの再生を願って、支柱で支えられ、けなげに立っています。市民も見守っていますガンバレー！

⑪^{ゆか}渝華園

この庭園は、中国四川省重慶との友好都市提携五周年、平成3年（1991）の記念事業として、重慶から送られた設計図を基に、広島市が建設したものです。



⑫^{いなり}空鞆稲生神社

由来は、昔決闘の際に刀剣の鞘を空に投げ上、松の枝に掛った故事に因むといわれています。江戸時代から戦前まで対岸の小姓町との間に空鞆渡しがあったといわれています。

境内には、西国街道と出雲石見街道との分岐の道標（常夜灯）が移設されています。街道の道標が、わかりやすい方向にあればと思います。



⑬鯉城桜土手の碑

広島を彩る新しい名所として「鯉城桜土手」の碑がライオンズクラブの手で建てられました。



⑭中津神社

原爆で焼け再建された神社で、市青少年センター近くの川沿いにたてられています。ここに広島城外堀の碑がたっており、当時城郭の広さをしのばせてくれます。



⑮広島の道路元標

元安橋の左岸直上流の植え込みに隠れるように広島道路元標があります。旧国道の出発点はここで、これより里程がはかられていました。



⑯中島本町

今は平和公園となっているこのあたりは、昔、広島の盛り場のメッカといわれ、明治15年(1882)に中島集散場の誕生と大黒座・胡子座の開設により登場しました。



⑰本川橋右岸雁木の船結わえ石柱



本川橋右岸下流には古い雁木が残っており、石組みは江戸時代のものがあります。そこには当時の舟結わえの石柱が残っており、荷物を積んだ多くの舟が行き交う姿を思い浮かべることができます。



⑱古い鋳物の灯籠

旧太田川を航行する船の安全を見つめてきた灯籠です。



⑲河原町

西平和大橋を渡ると河原町に入ります。江戸時代に瓦を焼いていた町で、当時は瓦町と呼ばれていました。当時をしのぼせる瓦屋さんが一軒残っています。

⑳中島神崎橋

神崎八景と呼ばれた景勝地も、今は、街の中に埋もれ当時をしのぶものは何もないですが、当時の絵姿を思い起こす場としていいところだと思います。



㉑住吉橋

現在補修中の住吉橋、赤いローゼ橋を渡ると住吉神社です。ここに水主町地藏尊堂が再建されていますが、原爆で焼失する以前には、天井に地獄極楽絵図がある立派なお堂があったといわれています。また、江戸時代船頭や、水主が住んでおり、水主町といわれていました。



㉒住吉橋記念燈

明治43年(1910)太田川本川を挟む両町民の寄付によって築造された住吉橋の完成を祝って建てられた住吉橋記念燈は、以来太田川本川を航行する舟の安全を見守ってきました。太田川高潮堤防建設に伴って平成8年(1996)9月18日この地に再建されました。



太田川の洪水と治水の歴史を考える散策会 (第6回)



天満川沿いの遊歩道

第6回散策会

日 時 平成 18 年 6 月 4 日 (日)

場 所 天満川・・JR 横川駅～厚生年金会館

講 師 佐々木卓也 (郷土史家)

1. 第6回散策会コース



2. 水辺紀行

6月4日（日）JR 横川駅前に10時集合、うす雲がかかったような空もようですが、季節柄でしょうが蒸し暑く感じられます。

谷奥地域づくり部会長の挨拶に続いて、佐々木先生より今日一日の行程が説明されました。

北より流れ下る太田川は、京橋川を東に分流した後に、横川の南より、天満川、福島川（川添川）を分流しています。城下町に流れ込む流水を郡部の荒野や農村地域に排除させようとするかのように、流れを西に向けています。

町方と郡部の住民との確執があったものと思われる



①横川駅前

古く出雲石見街道沿いに開けた町は、現在も交通の結節点として、垢抜けた若者の町として新たな賑わいを見せています。



②旧打越村稻荷大神

商売繁盛五穀豊穰を願って建立されたものと思われる。



③旧打越村一畑寺

集落が形成されれば、人口も増え病も発生する。子供が病気にでも罹れば藁にもすがる思いで、お参りしたのではないのでしょうか。



④横川橋の親柱

横川橋の親柱に江戸時代の川舟の絵図がはめこまれています。水の都広島は江戸の時代、船運が盛んに行われておりました。



⑤横川橋おかえり観音

楠木町1丁目にお祀りされていた観音様、この地が再開発されることとなり三瀧寺に祀られましたが、お参りする人が少なくなったため、地域の住民は再び三瀧寺に観音様の遷座を申し出て、横川橋のふもとに鎮座し、地域の安寧を見守ることとなりました。



⑥横川胡子神社

祭神を事代主神とする「商売繁盛の神」です。



⑦新横川橋

今の出雲石見街道で国道54号は、広島から山陰に向かう幹線道路となっています。



⑧洞春寺河原

天満川左岸堤防には、大きく育ったケヤキや楠木など、緑のトンネルが太陽の日差しをさえぎり、肌に心地よく感じられます。

毛利家の菩提寺として権勢をかざした洞春寺の寺領域を偲ばせる洞春寺河原です。



⑨広瀬神社

洞春寺ゆかりの広瀬大明神は、広島城下東郊の広島東照宮50年一度の大祭に、神輿渡御の御旅所になるといいます。



⑩渡し場跡

古くから川舟が多く行き交い、地域の生活を支えてきました。天満川の兩岸に水辺に下りる階段があり水辺には、はしけを支える杭が4本残っています。



⑪広瀬橋（古くは洞春橋）

橋の中央が航路となっている。東に向かう十日市交差点に出て、市の中心部につながっています。



⑫天満宮

天満町は、元小屋新町といわれたころ、たびたび火災が発生し、この災禍をまぬがれるため、文政5年（1822）天満宮を鎮護の神として祀ったと言われています。

天満町は、この神社に由来するということです。社の石積みは原爆の光線を受けたのでしょうか、あとが生々しく残っています。

天満宮の表道が西国街道で西に向かえば己斐、東に向かえば城下となります。



⑬西遊郭跡

電車通りに面する小網町は、西の遊郭があったといわれていますが、その面影はありません。



⑭明清稲荷大明神

天満川右岸沿いの町屋は、商売繁盛を祈ってお稲荷さんを祀りました。小さな御社ですが、水辺の緑に朱色の鳥居がアクセントになっています。



⑮緑大橋

平和大道りを東西につなぐ緑大橋、100メートル道路は緑豊かで市民の憩いの場になっています。



⑯観音院

江戸時代の干拓地で、最初に綿が植えられたということです。観音町の由来は、観音院といわれています。



⑰観船橋

観船橋には橋の下を人や自転車が通行できるようアンダーパスが造られています。

水辺の散策に活用されています。



⑱南観音町

江戸時代の干拓地の河口に位置し、瀬戸内海の漁が盛んに行われていました。

昭和になって、海苔の栽培が行われ、海苔の加工品が作られ全国への発祥の地になりました。「山城屋」「三島食品」、広島で修行した「のりたまの永谷園」等の会社があります。



⑲旧国道

旧観音橋は現在撤去中です。旧国道をって旧太田川本線の住吉橋を渡り、住吉神社で解散しました。





太田川の洪水と治水の歴史を考える散策会 (第7回)



第7回散策会

日 時 平成18年10月14日(土)

場 所 元安川・原爆ドーム～南大橋～平和公園

講 師 佐々木卓也(郷土史家)

1. 第7回散策会コース



2. 水辺紀行

平成 18 年 10 月 14 日（土）原爆ドーム前に 10 時集合、海外の観光客や団体の観光の人で人並みが切れません。

われわれの今回の散策会人数前回並みの 10 数名で、人数的にいまひとつの盛り上がりです。天気は、1 週間以上も、高気圧が西日本を覆って、今日の日中も暑くなりそうです。元気な佐々木先生の解説で、さあ出発。

①広島城外濠

原爆ドーム前横断歩道を渡った歩道沿いの植え込みの中に、広島城外堀の櫓跡の碑があります。東西に走る電車道は、広島城の外堀を埋め立て出来たということです。

相生橋左岸の堤防には、13 の櫓があって太田川本川は外堀の役目でもあったということです。今は桜並木があり環境護岸が施され、市民の憩いの場になっています。昔を偲ぶしるしが、何気なくでも置かれていると、よいと思うのですが……。



②相生橋アンダーパス

水の都広島にはたくさんの橋が架かっており、堤防を散策すること、また河川を管理するために支障となっています。そこで重要度の高いところから順次、橋梁アンダーパスの工事が行われています。川が地域分断の場になっているのではなく、もっと生活に身近な場となってほしいものです。



参考資料：橋梁アンダーパス

③広島市道路元標

元安橋東詰、植栽の中に江戸時代以来の里程の基点が置かれています。これから西国街道に従って、東西に一里塚が置かれました。広島から旅を始める人は、これより一里塚の標しを数え、次の宿場を目指して足を進めたものと思われる。



④元安橋（橋の記念碑）

西国街道の橋として、毛利元就の子、元康が架けたのが始まりといわれます。当時、元康橋と称されていたそうですが、家康の康を嫌い安としたということですが江戸の時代に賑わった町屋の風景は思い浮かびません。平成 4 年に被爆前の復刻デザイン架け替えられたということです。



⑤広島リバークルーズ復活

平成18年2月に「広島リバークルーズ」が経営不振で解散・清算してから約5ヶ月、(株)アクアネット広島の手によって経営が復活することができました。運航範囲も宮島までとサービス内容も変わったようで、私も乗ってみたいと思っています。



⑥西堂橋跡

毛利輝元の時代、広島城外堀を開削したとき堀につながって南に流れる堀川がありました。ここに浅野藩時代に架けられた西堂橋があったということですが、現在は百メートル道路の敷地内にあっ

て説明板が、その跡を示しています。明治の終わりに埋め立てられ、橋の役目は終わったということです。



⑦平和大橋

イサム・ノグチがデザインした橋で、人間の腕、拳の連なりと太陽を表すデザインは、広島を代表する橋として親しまれています。

今は雑踏とビルに埋もれて、少し影が薄くなっているように思います。



⑧金比羅社

街中に金比羅社がありました。広島は水の都という感を新たにしました。狛犬が立っているのは武運を祈り戦争に向かったもので、その時代を現しているとか・・・



⑨渡し場の跡

橋が現在のように多くなかった時代は、足代わりに渡しが使われていました。



⑩万代橋よろずよ

大正5年ドイツの技術者により、大手町と加古町（旧町名水主町）を結ぶ重要な生活道路としてまた地域における交通の要としてかけられました。加古町に県庁があったことから「県庁橋」とも言われていたということです。県庁通りとして賑わっていたことでしょう。



⑪新明治橋

現在の国道2号橋梁は慢性的な交通渋滞で交通量は満杯の状態、次の新しい道を求めてあえいでいるようにも見えます。



⑫明治橋

旧国道2号、幹線道路の役割を終えて、今は地域の生活道路の役割を一生懸命果たしています。平成18年5月、老朽化と元安川の護岸整備により歩行者専用道路として架け替えられました。



⑬タカノ橋

昔、西堂川という堀川がこのあたりを流れ、広島城の外堀につながっていました。当時鷹野橋という橋が架かっており、藩主が鷹狩りに来ていたところといわれています。外堀は明治の終わりに埋められて鷹野橋の名前だけが界隈の通りの名前として残ったということです。藩主鷹狩りの絵図が据えてあるのが楽しい。



⑭南大橋より

原爆ドーム前を出発し2時間ほど歩きました。朝は引いていた潮がずいぶん差してきました。水辺の風景は豊かな水量があるとよい。



⑮万象園跡

中区羽衣町の万象園は、広島の名庭園として知られていましたが、今は駐車場やマンションが立ち並んでいます。当時の写真でも設置されていればと思います。



⑩明治橋アンダーパス工事中

予算の都合もありましたが早期完成を願っています。



明治橋アンダーパス (H19.10.27)

参考資料：橋梁アンダーパス

⑪天満神社（旧天神町）

神社のお社も社叢もないが、菅原道真を祀った神社で、町名の由来ともなった神社です？ 原爆投下後の町づくりで街の片隅に追いやられてしまったのでしょうか？

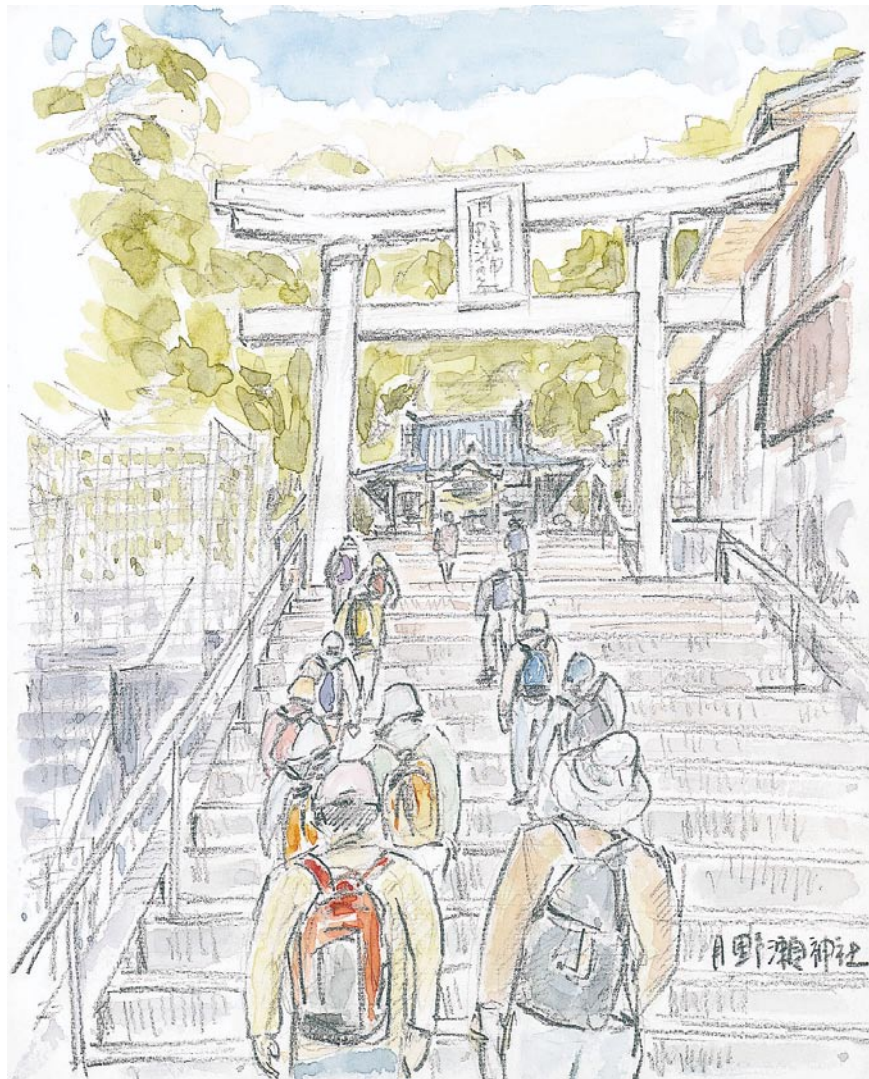


⑫水上ステージ

元安（康）橋上流右岸に水上ステージが係留され水上ライブが行われていました。生の歌声はいいものですね！



太田川の洪水と治水の歴史を考える散策会 (第8回)



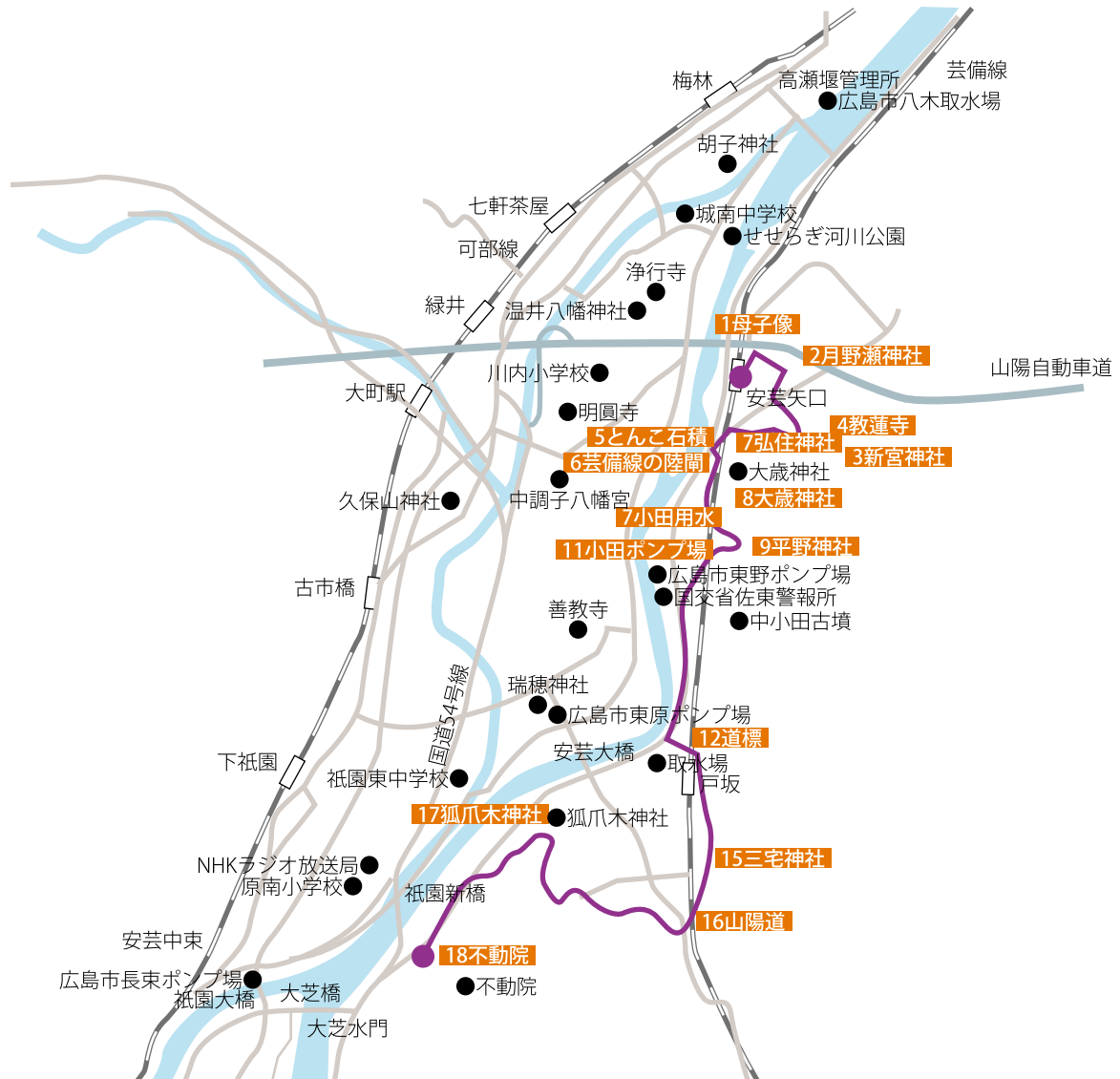
第8回散策会

日 時 平成 19 年 3 月 18 日 (日)

場 所 太田川左岸・・JR 安芸矢口駅～戸坂～不動院

講 師 佐々木卓也 (郷土史家)

1. 第8回散策会コース



2. 水辺紀行

今回は太田川の左岸、芸備線の安芸矢口駅から不動院までの約6kmを歩きました。今回のルートには、古寺仏閣が多く坂道も多くあり距離の割には足にこたえる道程です。佐々木先生の言によると、古寺は約5000年前、縄文時代の水際線に当たるのではないかとのことでした。

「太田川の洪水と治水の歴史を考える散策会」として、太田川を見ながら考えたいところでしたが、歩くルートからはビルや家屋の連たん・堤防で遮断され、水面はほとんど見えませんでした。しかし、高台からは太田川の流れと寄り添うように立ち並ぶ家屋と堤防が目に入ります。

安芸矢口駅に集合し、佐々木先生より本日の概要を聞き、いざ出発。

①母子像

駅近くの産婦人科の庭に母子が寄り添う像が目にとまる。喧騒の中に穏やかな空気を吹き込んでくれます。



②月野瀬神社（加茂大明神）

御祭神は竜神・雷の神様で、古くこのあたりは、太田川の水辺にあって港として栄えたものと思われます。太田川は降雨により洪水を発生させ、多くの土砂を送り出します。自然とうまく付き合っていくためには、長年の経験と自然に対する謙虚さが必要だと思えます。



③新宮神社・横を流れる矢口川

このあたりの矢口川には、季節になると蜚が現れるといます。街中であって貴重な存在とは思いませんか？。ここに熊野信仰の御祭神を大山祇命とする新宮神社があります。しかし、宅地化は神社周辺に及び鎮守の森は見当たらず境内のイチョウの木が往時の面影を物語っています。



④教蓮寺の大棟塑像瓦

口田南にある教蓮寺の屋根を見上げると、大棟に立派な竜が泳いでいます。自然災害から守り給えと龍神を棟に戴いたものと思えます。



⑤とんこ石積

玉石を割って、野面を合わし整然と積み上げてありました。古い住宅は洪水による浸水から住居を守るため、田面より高く土を盛り石垣を築きました。このあたりは太田川の氾濫原であったため玉石が出てきたのでしょう。



⑥芸備線の陸閘

矢口川水門の南、芸備線に陸閘がありますが、今は使われることはないでしょう。口田1丁目あたりが氾濫し芸備線を通り下流に流れ込む恐れがある場合、地域の水防団が出勤し陸閘を締め切ったものでしょう。今後も使われることはないでしょう。



⑦小田用水・開拓者が祀られる弘住神社

明暦2年（1656）に小田用水が通じ50町分が開発されました。開拓者である丸子市兵衛親子が祀られているという。

弘住神社（小田八幡神社）は北ノ庄（矢口村、小田村、古市）の氏神様であったということです。



⑧大歳神社は農業の守り神

神社からの眺めは、遠くいっただいが見渡せ村の中心に位置していたのですが、今は市街化に押し寄せられ埋れて、しまい、農業の神様も、家庭問題から交通問題などいろんな悩みの解決を持ちかけられているのでしょう。



⑨平野神社

口田村大字小田平野に鎮座する平野神社は、古墳の上に祀られています。安土桃山時代に平野山の小高い森に村人が、五穀豊穰と無病息災を祈願し建立したといわれます。境内は公園になっており子供の遊び場にもなっています。



⑩平野神社のご神木

鎮守の森の名残は御神木の大きな椎です。



⑪広島市小田ポンプ場

太田川に洪水が発生し水位が高くなってくると洪水の逆流を防ぐために水門が閉められます。そうすると堤防に囲まれた口田地域は浸水を始めます。そのとき威力を発揮するのが「小田ポンプ場」です。



⑫昔の道案内

口田南1丁目の三次に向かう旧道に、道しるべがあります。右に行くと深川、狩留家を経て三次に通ずる道で、左に行くと対岸の古市に通ずる渡しがあるという石標です。このあたりからすぐ近くに太田川の流れが望めていたものと思えます。



⑬原神社

東区戸坂惣田1丁目に、約470年前天文年間に勧請されたという原神社から見渡せる範囲は、太田川の氾濫域だったかもしれません。このあたりまで登ってくると太田川や住宅地が見渡せます。



⑭安芸大橋を眺望

原神社から金比羅神社（竜泉寺観音）のあたりから戸坂と東原を結ぶ安芸大橋が望めます。古くはこのあたりに千足の渡しがあったということです。今は橋のおかげで川を意識しなくてもよくなりました。



⑮三宅神社の社叢

戸坂数甲2丁目に三宅神社の社叢があります。開発され尽くした街中にほっと息のつける空間があります。朝夕にはこの社叢を散策する人が多いのでしょうかね。



⑯古代の山陽道

戸坂数甲2丁目、このあたりを古代山陽道が通っていたということです。このあたりを通り中山峠に向かっていったということです。道沿いに安政年間の石灯籠が立っています。



⑰狐瓜木神社

戸坂くるめ木に狐瓜木神社があります。古くから開かれた土地でしょう。この神社の勧請は貞観2年（860）というから古い。今日も百日の宮参りで家族が訪れていました。

武田信時が安芸国の守護職として移り住み祈願社としたことに始まるというから由緒があるのでしょうか。



⑱今回の散策終着不動院

今回は安芸矢口駅から不動院までの約6kmということであったが、道中の山坂と入り組んだ道は体感10kmというところでしょうか？

お疲れ様でした。



あとがき

太田川の洪水と治水の歴史を考える散策会は8回にわたって開催いたしました。第1回の散策会は、高瀬堰完成を記念して建立された「大禹謨」の碑から始まりました。「大禹謨」とは、黄河治水を成し遂げて古代中国の夏王朝の王になった禹王の功績に准えたものです。「国を治むるは水を治むるに如かず」の故事は、この禹王の功績から来ていると云われています。

終戦直後の昭和20年9月、太田川治水期成同盟会が太田川治水工事を切望して再開された太田川放水路工事と高瀬堰の完成によって広島市内の治水がほぼ達成されたといわれています。「水辺の歴史を訪ねる会」の意義が正しく表現された第一歩だと思いました。

明治時代、西欧の技師が「滝のようだ」と評したとおり、日本の川は「降れば洪水、照れば渇水」となります。四大文明が川の流域に発達して以来、人類は川からの恵を享受しながら、子孫の繁栄を願って生きてきました。同時に川は、洪水との格闘も人々に挑んできました。その戦いの痕跡がダムや堤防、霞堤、水はね、石積みの護岸等や川の恵を得るための取水堰、用水路、用水樋門等であると思います。人々は、その時代における最高の叡智をして、川・水との折り合いをつけてきました。その歴史の積み重ねで今日の平穏を保っているともいえます。

一方、河岸周辺には川との戦いに敗れた慰霊碑をはじめ、治水工事竣工や功績者を讃えた顕彰碑等もあります。私達が散策した太田川流域にも治水や洪水の歴史を留める施設・旧跡、顕彰碑、慰霊碑がありました。

太田川流域では、民間の方々と国土交通省、広島県、広島市が協働して、水辺における都市の楽しみ方の創出、都市観光の舞台としての水辺、「水の都ひろしま」にふさわしい個性と魅力ある風景づくりを「水の都ひろしま構想」として推進しています。今回、私達「水辺の歴史を訪ねる会」が太田川沿いの治水施設や旧跡・神社仏閣、顕彰碑・慰霊碑などを廻り、その道程を綴った「CD版 水辺の歴史を訪ねて」が「水の都ひろしま構想」の一助になれば幸いです。あわせて、太田川の水辺を散策していただけるなら、今日、安心して安全に暮らせる幸せには、川との折り合いを付けてきた先人の叡智と努力があることを一瞬でも思い起こしていただければと願います。

最後になりましたが、講師として第1回、第2回を郷土史家の村岡幸雄さん。第3回から第8回を佐々木卓也さんによりご指導・ご講義をたまりました。あわせて国土交通省太田川河川事務所の職員の方からも高瀬堰や大芝水門でのご講義や資料等のご提供を戴きました。

また「水辺の歴史を訪ねて—太田川—」をCD版の刊行にあたり、社団法人中国建設弘済会よりの公益活動助成のご支援とともに、表紙や挿入の水彩画は、水辺の歴史を訪ねる会会員の井上宏司さんの作品を使用させていただきました。ここにあらためて感謝いたします。

なお、「CD版 水辺の歴史を訪ねて」の資料編に、国土交通省太田川河川事務所作成パンフレット並びに広島郷土資料館調査報告書14「八木用水」広島市発行「佐東町史」から一部を引用させていただいております。関係機関並びに関係者に感謝申し上げますと共に、複製は硬くお断り致します。



「新横川橋付近」 画：井上宏司

『水辺の歴史を訪ねて —太田川—』

制作年月 平成19年12月

制作・文責 中国地方公益活動推進会議 地域づくり部会